



データリセット・プログラムモードS

- TRIP2・最高速度・最高回転数・最高温度が表示された状態でRESETボタンを2秒間長押しするとその数値をリセットして0に戻すことができます。メンテナンスリマインダーの数値は設定されたメンテナンス間隔に戻ります。
- TRIP1・平均速度・ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残り2機能の値も同時にリセットされます。
- オドメーター・時計・アワーメーター・トータルライディングタイムの各値はリセットできません。

シフトワーニング回転数設定

- MODE または RESET ボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開け、警告させたい回転数までエンジン回転を上げます。
- RESET ボタンを押すと、その時の回転数が警告回転数としてセットされます。
- 以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇すると警告LEDが動作します。
- 再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態で RESET ボタンを2秒間長押しします。

バックライトカラー調整:

- MODEボタンを押して電圧計の表示にします。その状態でRESETボタンを2秒間長押しするとバックライトカラーのセットモードに入ります。
- セットモードでは「LED RGB」「RX-GX-BX」表示に変わります。「X」は0～9までの数字で、R=赤・G=緑・B=青各色の光の強さを表しています。
- RESETボタンを押す度に、点滅している数値が1 ずつ増えます。MODEボタンを押すと次の色の数値に点滅が移動します。MODEボタンを2秒間長押しするとセットモードを抜け通常モードに戻ります。

タイヤ外周長一覧表(マグネットセンサー用)

- 下表は次の計算式を使用して計算しています。
「タイヤの直径(インチ)×25.4(mm)×3.1416 = タイヤ外周長」
- 表中の直径はホイールサイズではなく、タイヤを含めた直径であることに注意してください。
- 車両のタイヤ直径（ホイールサイズではなく）を確認して下表より外周長を求めてください。また、この表を使わなくても「タイヤの直径(mm)×3.1416」で外周長を計算することが出来ます。

タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

- 表の数値は概算値です。実際に車両タイヤの外周長をmm単位で測定してメーターに設定いただくことを強くおすすめします。
- 本機は、速度パルスの間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用した場合に限っての数値です。
- メーターワイヤーセンサーを使用する場合、設定数値は「メーターワイヤー軸1回転あたりの距離(mm)」となります。バイクを押してメーターワイヤーを回し、メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で計測していただいたものが設定数値となります。一般的な国産車の場合、JIS規格値の「60Km/h＝1400rpm」から計算された715mmという値が設定値となります。ただし、ホイールサイズなどを変更している場合は測定が必須です。
- マグネットセンサーの場合、マグネットを増やすことができます。マグネットを2個にした場合、分周器の設定を「002」にします。ただし、マグネットの数は2コ程度までに留めるほうが良いでしょう。

時計・速度・リマインダ・タコ・外周長・分周・単位・小数点・温度・燃料の設定

- セットアップモードでは現在時刻、12/24時間制切替、速度計機能、シフトワーニング警告回転数、タコメーターパルス数、タイヤ外周長、スピードパルス数、使用単位、小数点表示、メンテナンスリマインダ、バッテリー警告、温度単位および警告温度、フューエルセnder抵抗値、オドメーター初期値の各設定を変更可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードへ戻ります。
- セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。

- セットアップモードは「XX:XX:XX」および「12H」または「24H」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「」「TRIP と 1000」表示になります。メンテナンス間隔（距離）をMODEボタンで1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「RPM r06500」表示になります。シフトワーニング回転数をMODEボタンで1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「RPM SP 1r1P」画面になります。出荷時は1r1Pとなっています。設定には1r1P, 2r1P, 3r1P, 1r2P, 1r4Pの5種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えばエンジン2回転当たり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。
- RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「SPD cXXXX」表示になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「SPD P001」表示になります。ホイール1回転あたりのパルス数を入力します。付属ワイヤーセンサーやオプションのマグネットセンサーをマグネット1個で使用する場合、設定値は「001」となります。MODEボタンで1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「HALL」または「rEED」が表示されます。HALLはAcowell独自の2線式ホールセンサー（付属ワイヤーセンサーも含みます）に使用するモードです。rEED はリードセンサー（別売のマグネットセンサー）や3線式のセンサーなどに使用するモードです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「SPD UNIT-1 又は 2」画面になります。1 はKM/Hを、2はMPHを表します。RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- *次に「TEMP」と「℃, °F, HI または oFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「HI」、「oFF」表示へと変わります。「HI」にした場合、入力線がアースされると警告が発生するようになります。「oFF」にした場合、メーター上に温度計は表示されなくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- *次に「XXX」と12で選択した温度単位が表示されます。温度警告を開始したい温度を1桁ずつ設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「ODO」と「00000X km」表示となります。1桁ずつ設定値を入力します。オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、この設定画面は現れなくなり、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。MODEボタンを押すと最初の時計設定に戻ります。2秒間長押しすると通常モードに戻ります。

